

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙 「みらい」
NO. 3683
16年8月30日(火)
・Fax 095-828-1953

無理をしなくて済む 業務指示を求める

おはようございます。

8月も残り二日となりまして。非常に暑かった今夏も、先日の雨で一息つき多少涼しくなつたといえます。暑さ寒さも彼岸(9月21・3月21日)までといえます。あと一ヶ月弱、暑い日もあると思います。疲れが溜まり体調を壊しやすい時期です。無理をせず体をケアしながら乗り切りたいと思います。

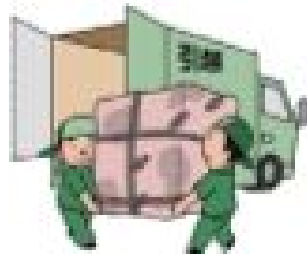


今夏の集配営業部での業務を振り返り、特徴と課題を挙げ改善を求めたいと思います。

今年の特徴として真っ先に挙げられるのは、猛暑が続いたことでしょうか。ところによつてにわか雨があつた日もありますが、長崎市全域で雨が降つたのは梅雨明け以降、先日の雨が初めてだったのではないのでしょうか。この間一カ月半以上もまとまった雨が降

りませんでした。夜になつても気温が下がらず、連日午前中から30度を超え非常に身に堪えませんでした。

この為、第一集営部で配達中具合が悪くなり、何とか帰局したもの、その後救急搬送され三日間入院となつた社員をはじめ、熱中症と思われる体調不良で多数の社員が休む事態となりました。



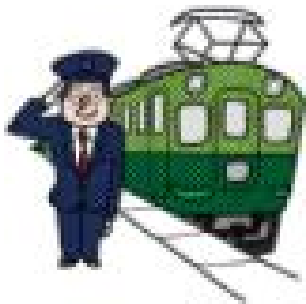
同は、給水機の設定や熱中症予防に効果があるといわれる塩飴などの配備に加え、毎日「熱中症に注意し具合が悪くなつたら無理をせず休み休み配達するよう」とミートイングで繰り返し周知を行いました。同としては対策を取り、十分注意を促したというでしょう。

矛盾する業務指示

しかし、実際配達に携わっている社員からすれば、同の対策は口先だけといわざるを得ません。一番の問題は経費節減の為か、どんなに暑い日でも「定時退社」を強く求めることです。

集配営業部社員にはこの「定時退社」という指示が最もプレッシャーとなります。「今日は郵便物数(平常比)95%なので定時で終了して下さい」「一部多い配達区もありますが、班内の共助共援で全員定時で上がるようにして下さい」「二本線・三本線特定の指示郵便物は、きつちり計配し超動しないように」などと周知・指示が行なわれます。

一昔前と異なり現在の配達現場では定型の郵便・葉書が減り、高張る定型外・ゆうメールが多くなっています。また追跡ゆうメールやポスパツケなど追跡入力をするものも多くなり、一通あたりのかかる時間が増加し、とてもじゃないけど進捗管理板通りには配達が終わりません。



また、今年4月の定員減員施策でも判るように通配・混合・小包問わず余剰時間の取り上げが行われ、混合区からの通配区応援(間区ともいっが)さえも出来ない状況となつています。共助共援で・・・と言われても、他区を応援する余裕など全くないのが現状です。

一月以上続いた酷暑の下でも、皆一生懸命業務に取り組みました。郵便物数が平常値以下だから定時退社、ましてや班内の共助共援で、と言われては、どんなに具合が悪くても配達中休み休み作業をするなど不可能です。階段が多くバイクの行かない地域の多い長崎の地



形も考慮し、天候などを加味した無理のない業務指示を行つてほしいものです。



ゆうパック配達でも問題

ゆうパック配達では、昨年の夏期から、社員の担当する小包区の変更があつていいます。第一第二集配営業部では受託者の撤退で社員区が増加しました。第二集配営業部では、これまでビジネス街を中心とした地域が社員区(一部住宅地もあ

り)で、山手の住宅地は受託者が担当してました。

第三集配部は長中受け持ちエリアで一番遠い地域が受託者から社員区へ変更になりました。

社員区になつた事で、混合区と連携し、今までできなかった速達や書留をゆうパックと一緒に配達することができるようになりました。この事は、効率よく配達する意味では、大きなメリットとなりました。



ただ、社員区にしたことで、人件費の増加は否めません。毎日、日勤、夜勤2名配置しなければなりません。配達総数が少なくても、16時から18時の時間指定や20時から21時の時間帯指定が多い場合は超動になります。

また、人件費以外にも車の維持費、ガソリン代も発生します。これが、デメリットではないでしょうか？

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望者全員を正社員化を。

めどせ、均等待遇

なくその差別！

ユニオンは労基法裁判に勝利するぞ！

期間雇用パート労働者の皆さん! 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1 集-山本, 2 集-向井, 3 集-山田, 郵便-高田, ゆうちょ銀-上筋, 東-松岡, 他支部・分会の役員へ。